

福岡市の 財政と市債



目次

第1部 ■■■■

1. 福岡市の概要	3
2. 福岡市の経済	4
3. 福岡市の強み	5
4. 福岡空港の機能強化	7
5. 福岡市の魅力	8

第2部 ■■■■

6. 2018(平成30)年度決算見込	11
7. 歳入決算の推移(一般会計)	12
8. 歳入決算の推移	13
9. 歳出決算の推移(一般会計)	14
10. 特別会計2018(平成30)年度決算の状況	15
11. 公営企業の経営状況(2018(平成30)年度決算)	16
12. 福岡市営地下鉄の状況	17
13. 外郭団体の経営状況	18
14. 地方三公社の経営状況(2018(平成30)年度決算)	19

第2部 続き

15. 市債発行額の推移	20
16. 市債残高の推移	21
17. 主な財政指標(2017(平成29)年度)	22
18. 健全化判断比率(4つの指標)	23
19. 「財政運営プラン」2017(平成29)~2020(令和2年度)	24
20. スタートアップ都市 福岡市	25
21. ウォーターフロントネクスト	26
22. 都市の成長に向けた産業集積(国内外企業の誘致促進)	27

第3部 ■■■■

23. 福岡市の信用格付け	29
24. これまでの取り組みと発行実績	30
25. 2019(令和元)年度 福岡市市場公募地方債の発行計画	31

福岡市の木



クスノキ



クロガネモチ

福岡市の花



フヨウ



サザンカ

福岡市の鳥



ユリカモメ



ホオジロ



第 1 部

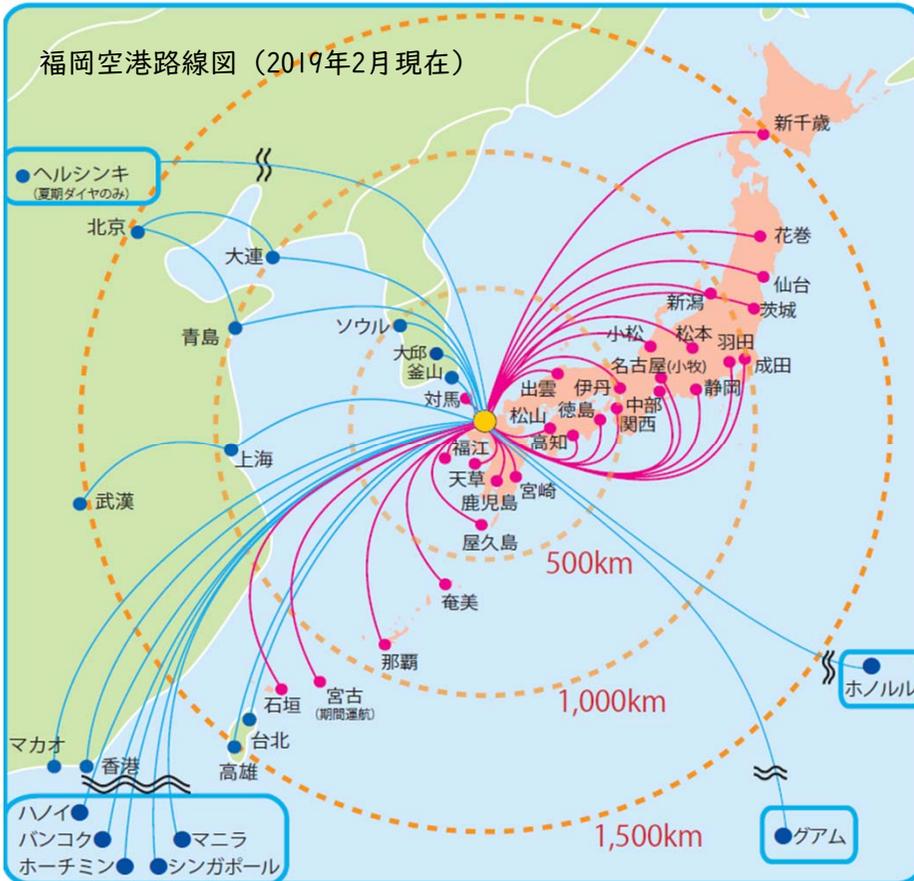


1. 福岡市の概要

- 人口は約159万人（政令市中5番目），世帯数は約82万世帯です。
- 地理的には，福岡を中心とした1,500km圏内に国内の主要都市（大阪，東京，札幌）と，東アジアの主要都市（釜山，上海，北京，台北など）が，収まっています。
- 韓国・中国をはじめ，アジア諸国との交流には最適の立地です。



福岡空港路線図（2019年2月現在）



都心部・空港・港湾が近距離のコンパクトシティ福岡

博多駅・福岡空港・博多港
都心部（天神）が半径3キロ以内



2. 福岡市の経済

- 市内総生産は大阪・名古屋・横浜に次ぐ、政令市第4位の経済都市です。
- 国の出先機関（地方支分部局等）、大企業の支店、金融・サービス業が集積しています。
- 産業構造は卸売・小売業やサービス業など第3次産業が約9割です。
- 『九州・山口1,500万人経済圏』の商業・ビジネス・文化の拠点となっています。

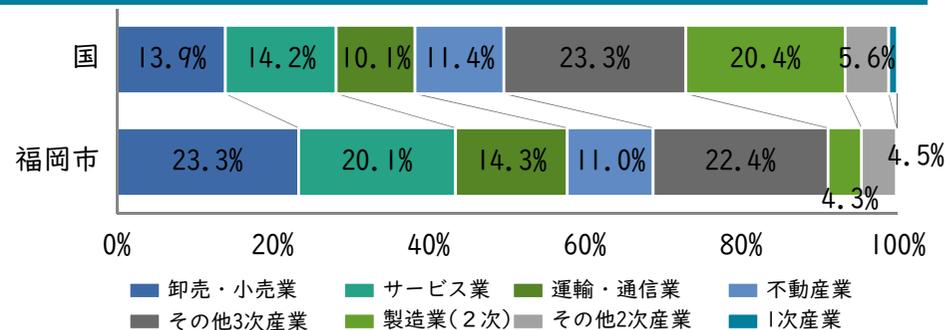


福岡市の経済構造

市内総生産	7兆6,562億円	第4位／16政令市中 <small>公表している16政令市</small>
1人当たり市民所得	337万円	第3位／16政令市中 <small>公表している16政令市</small>
昼夜間人口比率	110.8%	第3位／20政令市中
第3次産業従業者割合	90.4%	第1位／20政令市中
商品販売額	11兆3,354億円	第3位／20政令市中

※ 「市内総生産」（名目）及び「一人当たり市民所得」は2015年度、「昼夜間人口比率」は2015年、「第3次産業従業者割合」及び「商品販売額」は2014年の数値

経済活動別市内総生産（2015(平成27)年）



市内総生産額（2015）

大阪市	19兆7,618億円
横浜市	13兆5,429億円
名古屋市	12兆8,861億円
福岡市	7兆6,562億円
神戸市	6兆5,917億円
札幌市	6兆5,667億円
京都市	6兆3,194億円
川崎市	6兆1,344億円
広島市	5兆3,628億円
仙台市	5兆577億円
さいたま市	4兆2,241億円
北九州市	3兆6,872億円
千葉市	3兆6,413億円
新潟市	3兆1,263億円
浜松市	3兆65億円
岡山市	2兆8,427億円

※ 静岡市、堺市、相模原市、熊本市は未集計

3. 福岡市の強み①（人口増加）

- 人口は毎年約1万数千人ずつ増加。今後も20年程度は増加が続くと予測されています。

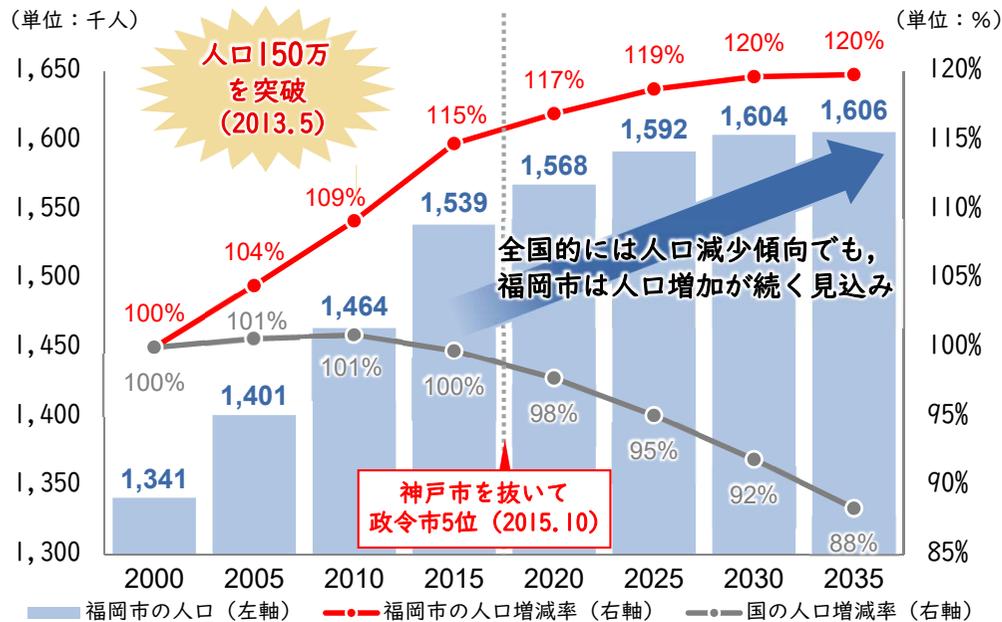
〔 2010年～2015年国勢調査までの人口増加率・増加数ともに指定都市で最大
 （増加率：①福岡市，②仙台市・川崎市 / 増加数：①福岡市，②川崎市，③さいたま市） 〕

- 人口構成は，年少人口（0～14歳）13.3%，生産年齢人口（15～64歳）66.0%，老齢人口（65歳以上）20.7%，平均年齢は43.1歳で，政令指定都市の中でも若く活力のある年齢構成です。（2015年10月1日現在）

- 市内に20を超える大学・短大が集まっており，学生の割合は7.1%と，京都市に次いで高くなっています。



国及び福岡市の人口将来予測 ※1

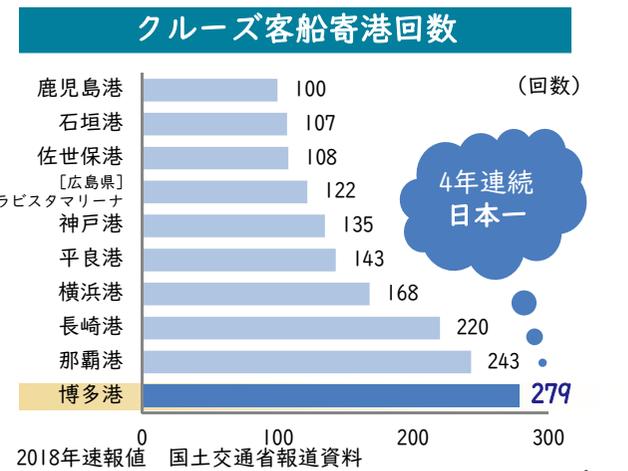
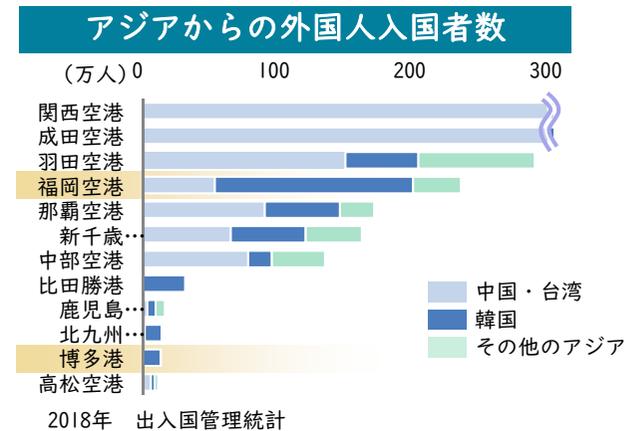


※1 「日本の将来推計人口」（2012.1 国立社会保障・人口問題研究所）をもとに福岡市が推計
 ※2 「人口増加率」は，2010年国勢調査値から2015年国勢調査値の増加率である。
 ※3 「生産年齢人口割合」及び「平均年齢」は，2015年国勢調査による。

人口増加率 ※2	生産年齢人口割合 ※3	平均年齢 ※3
福岡市 5.1%	川崎市 67.7%	川崎市 42.8歳
仙台市 3.5%	福岡市 66.0%	福岡市 43.1歳
川崎市 3.5%	仙台市 65.0%	仙台市 44.3歳
さいたま市 3.4%	さいたま市 64.0%	さいたま市 44.3歳
札幌市 2.0%	横浜市 64.0%	広島市 44.4歳
広島市 1.7%	札幌市 63.7%	岡山市 44.7歳
岡山市 1.4%	相模原市 63.6%	熊本市 44.8歳
名古屋市 1.4%	大阪市 63.6%	相模原市 44.8歳
千葉市 1.1%	名古屋市 63.3%	横浜市 44.9歳
大阪市 1.0%	千葉市 62.4%	名古屋市 45.0歳
横浜市 1.0%	広島市 62.1%	千葉市 45.4歳
熊本市 0.9%	京都市 62.0%	堺市 45.8歳
相模原市 0.5%	熊本市 61.7%	大阪市 45.8歳
京都市 0.1%	岡山市 61.5%	京都市 45.9歳
新潟市 ▲0.2%	新潟市 60.8%	浜松市 46.2歳
堺市 ▲0.3%	神戸市 60.7%	札幌市 46.2歳
浜松市 ▲0.4%	浜松市 60.0%	神戸市 46.6歳
神戸市 ▲0.4%	堺市 59.5%	新潟市 46.8歳
静岡市 ▲1.6%	静岡市 59.3%	静岡市 47.5歳
北九州市 ▲1.6%	北九州市 58.1%	北九州市 47.5歳

3. 福岡市の強み② (充実した交通網)

- 空港，港湾，鉄道(地下鉄・JR・西鉄)，新幹線(山陽新幹線・九州新幹線)，高速道路網などの交通機能がコンパクトにまとまっています。特に，空港から博多駅までは，地下鉄で約6分という近さです。
- 福岡空港における乗降客数(約2,464万人：2018年)は国内第4位，貿易額(約1兆4,470億円：2018年)は国内空港第5位で，アジアを中心とした海外およそ20の都市と結ばれています。
- 博多港の外国航路船舶乗降人員数は年間約209万人と，25年連続で全国第1位です(2017年確定値)。



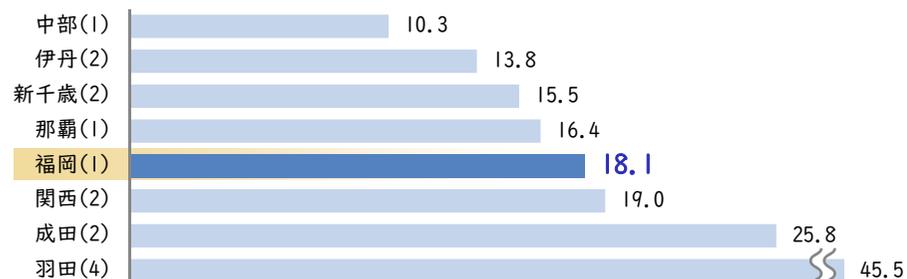
4. 福岡空港の機能強化

- 福岡空港の年間発着回数は国内4位（滑走路1本の空港では1位）です。2018年度の発着回数は約18.1万回（滑走路処理容量16.4万回/年）に達し、過密化が著しく、将来の航空需要に対応するためにも、空港機能の強化が必要です。
- 国は2016年から滑走路増設事業に着手しており、2025年3月末に供用開始予定です。総事業費は1,643億円で、福岡市の負担は、従来の負担スキームから試算すると約180億円と見込まれています。
- 空港ビル及び滑走路の運営は2019年度より民営化されており、運営会社は空港ビル内の複合型商業施設開発、5つ星ホテルの誘致、今後30年間の路線数倍増等、空港機能の大幅な強化を図る計画です。

福岡空港の現状

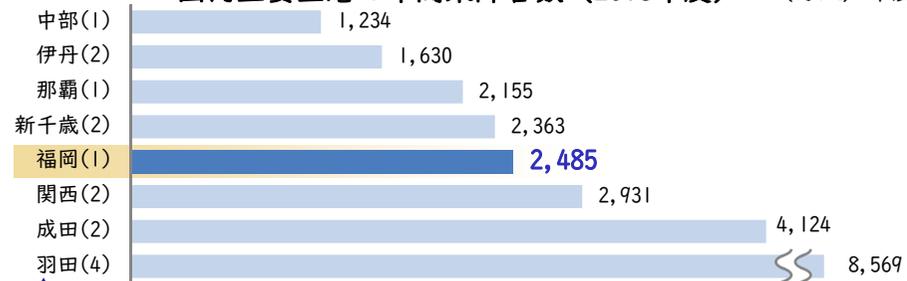
* 括弧内は滑走路本数

国内主要空港の年間発着回数（2018年度）（万回/年度）



国土交通省「空港管理状況」を基に作成

国内主要空港の年間乗降客数（2018年度）（万人/年度）

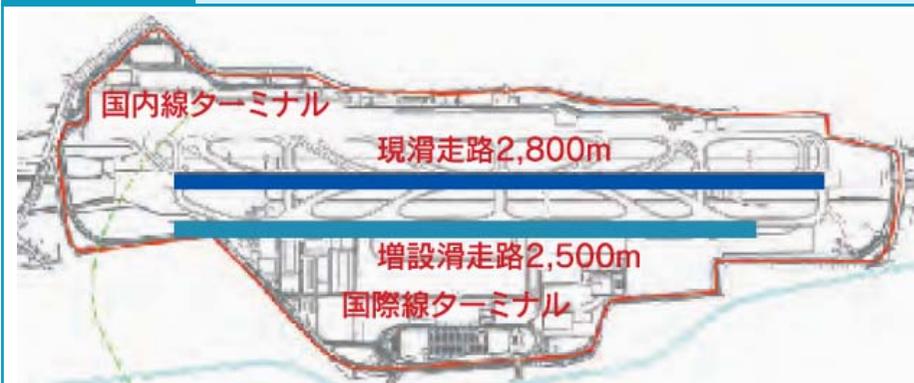


国土交通省「空港管理状況」を基に作成

福岡空港の機能強化に向けた方策の検討

計画案

現空港にて2,500mの滑走路を増設
処理容量：年間18.8万回



総事業費

約1,643億円

供用開始 予定日

2025年3月末



5. 福岡市の魅力①

市民からの評価

2018（平成30）年度 市政に関する意識調査

Q: 福岡市が好きですか？



※「好き」78.9%、
どちらかといえば好き18.9%」

Q: 福岡市は住みやすいですか？



※「住みやすい」72.8%、
どちらかといえば住みやすい24.3%」

開業率

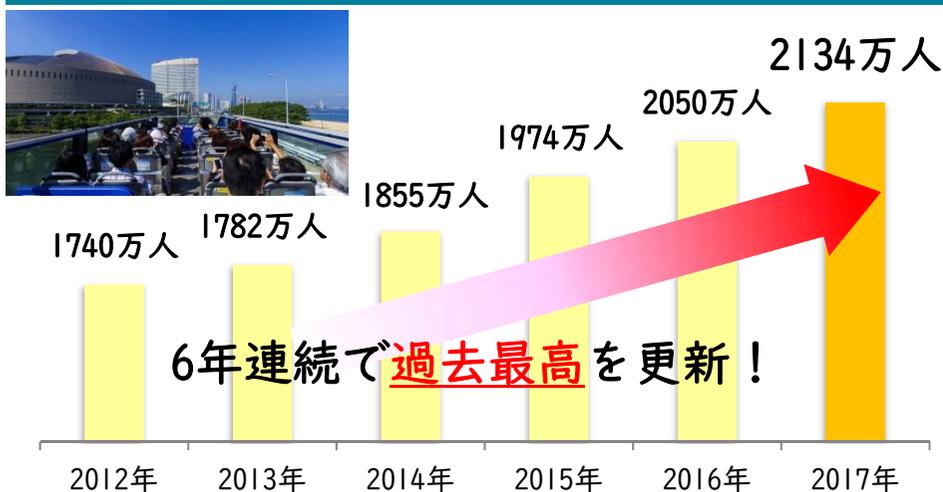
開業率が日本一のスタートアップ都市！



既存の事業所数に占める新規事業所数の割合を示す「開業率」が、21大都市（政令指定都市と東京23区）で3年連続第1位（2015年度）。2016年度も7.65%と高い伸びを示しています。

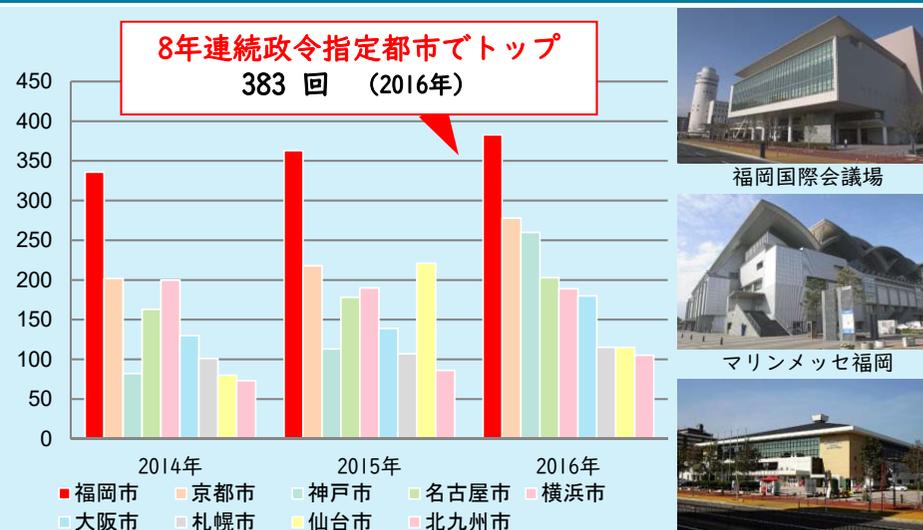
開業率の高い都市（2015年度）		
1位	福岡市	7.04%
2位	さいたま市	6.92%
3位	川崎市	6.71%
4位	相模原市	6.68%
5位	千葉市	6.48%

入込観光客数（日帰り客+宿泊客）



※ 福岡市観光統計（2019年版）

国際コンベンション件数の推移



5. 福岡市の魅力②

福岡本がちょっとしたブームに

近年、福岡市(及び福岡都市圏)についての分析本が続出



アジア諸都市との連携・交流

立地と歴史を最大限活かし、早くからアジアとの交流を重視

継続開催中		備考
1989~	アジア太平洋子ども会議	民間レベルの交流活動
1990~	アジア太平洋フェスティバル, 福岡アジア文化賞	アジア文化賞では、後の文化勲章やノーベル賞受賞者も受賞。秋篠宮さま15年連続ご臨席
1991~	アジアフォーカス・福岡国際映画祭	殆ど日本初公開作品。国内・国外配給や、映画ロケ地選定のきっかけにも
1994~	アジア太平洋都市サミット(隔年開催)	保健衛生・教育・防災…など各種都市問題について各国諸都市の首長や関係事業者の意見交換・交流

国連ハビタット(福岡市内にアジア太平洋本部)及び、世界銀行との連携(都市パートナーシッププログラム)も合わせて、世界の都市問題解決・本市のプレゼンス向上・地域産業の飛躍の機会に

野村総研「成長可能性都市ランキング」

野村総研による産業創発力(今後の成長性)のランキングで上位評価 (国内100都市対象)

	第1位	第2位	第3位
総合ランキング (実績・ポテンシャルを含めた総合的な産業創発力)	東京都特別区部	福岡市	京都市
ポテンシャルランキング (実績とポテンシャルの差分で見た“伸びしろ”)	福岡市	鹿児島市	つくば市

「多様性を受け入れる風土」「創業イノベーションを促す取組」「多様な産業が根付く基盤」「人材の充実・多様性」「都市の暮らしやすさ」「都市の魅力」…など、全12種のランキングすべてで上位評価

野村総研資料より抜粋

「福岡市は産業創発力を構成するすべての要素をバランスよく満たしている。持てる強みを活かしてビジネスを創出し、成長していくことが期待される」

※野村総研「国内100都市を対象に成長可能性をランキング」(2017)



第2部



6. 2018(平成30)年度 決算見込

本資料記載の平成30年度決算見込数値は暫定値です。

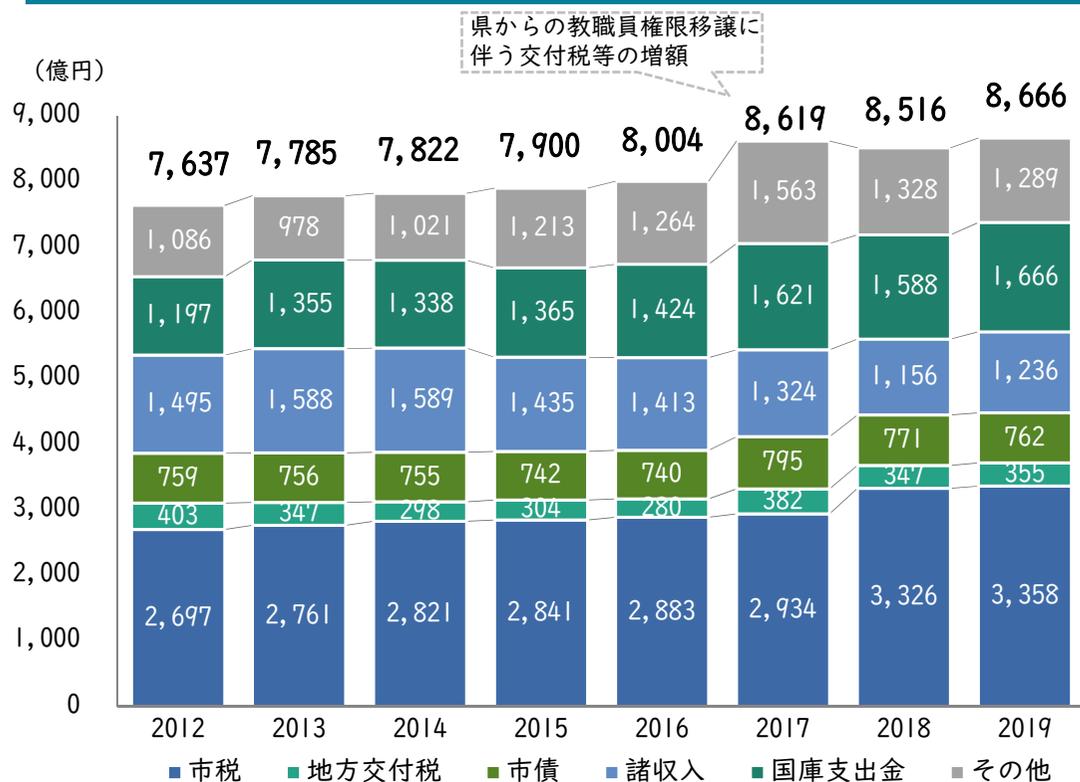
区分		2018(平成30)年度決算 (A)	2017(平成29)年度決算 (B)	差引増減額 (C) = (A) - (B)
一般会計	歳入	8,516 億円	8,619 億円	△ 103 億円
	歳出	8,389 億円	8,498 億円	△ 109 億円
特別会計	歳入	7,535 億円	7,430 億円	105 億円
	歳出	7,472 億円	7,353 億円	119 億円
企業会計	収入	2,471 億円	2,485 億円	△ 14 億円
	支出	2,741 億円	2,778 億円	△ 37 億円
合計	歳・収入	1兆8,522 億円	1兆8,534 億円	△ 12 億円
	歳・支出	1兆8,602 億円	1兆8,629 億円	△ 27 億円

※端数処理の関係で、計が合わない場合がある。

7. 歳入決算の推移（一般会計）

- 市内総生産の約90%を第三次産業が占めており、比較的安定した税収構造が特長です。
- 市税を中心とした自主財源比率は、政令指定都市の中でも比較的上位の水準です。
- 2019(令和元)年度当初予算では、納税者数の増・企業収益の改善・新增築家屋の影響等により市税収入が増加。これに伴って地方交付税等が減少するも、2018(平成30)年度当初予算額（8,388億円）及び同年度決算見込額（8,516億円）を上回ると見込んでいます。

歳入内訳の推移



※ 2017年度までは決算，2018年度は決算見込，2019年度は当初予算

政令指定都市の主な歳入の割合（2017年度）

自主財源比率		地方交付税		市債	
名古屋市	60.4%	川崎市	0.1%	名古屋市	6%
川崎市	59.6%	名古屋市	0.9%	大阪市	6.8%
千葉市	55.8%	横浜市	1.5%	川崎市	7.7%
横浜市	55.7%	さいたま市	1.5%	千葉市	9.1%
大阪市	55.2%	千葉市	3%	福岡市	9.2%
福岡市	54.7%	大阪市	3%	横浜市	9.3%
さいたま市	54.1%	福岡市	4.4%	相模原市	9.4%
仙台市	54.0%	相模原市	4.6%	仙台市	9.4%
相模原市	50.6%	静岡市	5%	札幌市	10.6%
浜松市	48.5%	仙台市	5.2%	浜松市	11.1%
静岡市	48.3%	浜松市	6.7%	岡山市	11.3%
神戸市	47.8%	広島市	7%	京都市	11.4%
京都市	47.2%	堺市	7.5%	神戸市	11.6%
広島市	45.5%	神戸市	8.2%	さいたま市	11.8%
岡山市	45.1%	京都市	8.5%	広島市	12.5%
北九州市	44.0%	岡山市	9.5%	堺市	12.6%
札幌市	42.3%	熊本市	10.7%	静岡市	12.8%
新潟市	41.0%	札幌市	10.8%	北九州市	12.8%
堺市	40.1%	北九州市	11.1%	熊本市	14.9%
熊本市	33.3%	新潟市	13.1%	新潟市	15%

※ 他都市との比較上、普通会計ベースで表示しています。

8. 税込決算の推移

- 毎年着実に人口が増加し、税込基盤は比較的安定しています。
- 市民一人あたりの税込は、政令指定都市の中でも上位となっています。
- 2019(令和元)年度当初予算では、個人市民税は納税義務者数の増加等、法人市民税は企業収益の改善等、固定資産税は新增築家屋の影響等で、それぞれ増加すると見込んでいます。

福岡市の税込の推移



※ 2015年度以降の法人市民税の減は、税制改正による一部国税化の影響によるもの

※ 2017年度までは決算、2018年度は決算見込、2019年度は当初予算

政令指定都市の1人あたり税込 (2017(平成29)年度)

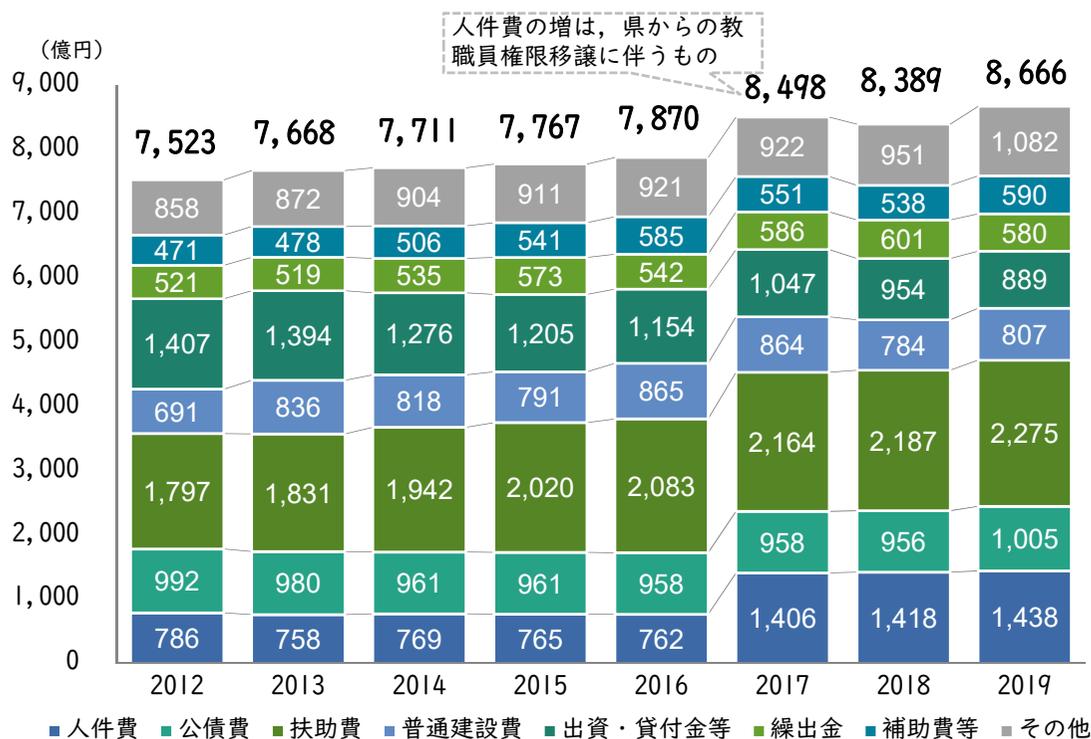
都市名	1人あたり税込 (円)	(参考)	
		税込(百万円)	人口
大阪市	249,925	675,404	2,702,432
名古屋市	225,631	516,297	2,288,240
川崎市	209,126	311,186	1,488,031
横浜市	194,535	727,141	3,737,845
福岡市	191,872	293,380	1,529,040
千葉市	183,596	177,690	967,832
さいたま市	181,098	233,981	1,292,016
京都市	180,615	255,710	1,415,775
仙台市	180,246	191,159	1,060,545
静岡市	179,659	126,891	706,287
神戸市	177,253	273,490	1,542,935
広島市	175,485	209,762	1,195,327
北九州市	163,836	157,450	961,024
浜松市	163,357	131,831	807,013
岡山市	162,765	115,431	709,188
堺市	159,828	134,355	840,622
相模原市	159,219	114,350	718,192
新潟市	151,791	120,943	796,773
札幌市	149,768	292,400	1,952,348
熊本市	135,386	99,416	734,317

※人口は2018年1月1日現在住民基本台帳人口
1人あたり税込=税込(百万円未満切捨)/人口

9. 歳出決算の推移（一般会計）

- 早くからゴミ収集の委託化や保育所民営化等に取り組んでおり、義務的経費のうち人件費の比率については、政令市中で最も低い割合となっています。
- 公債費は、市債残高の縮減等で減少傾向にあります。一方で扶助費は、生活保護や障がい者福祉、教育・保育給付等により増加傾向にあります。
- 2019年度当初予算では、子どもが健やかに育つ環境の充実に向けて、こども育成費を70億円増額するなど、「都市の成長」と「生活の質の向上」の好循環をあらゆる人に行き渡らせることに注力しています。

歳出内訳（性質別）の推移 ※



※ 2017年度までは決算，2018年度は決算見込，2019年度は当初予算

政令指定都市の歳出全体に占める義務的経費率(2017年度)

人件費	公債費	扶助費
福岡市 16.3%	熊本市 7.7%	新潟市 19.3%
札幌市 16.9%	札幌市 8.4%	静岡市 20.1%
大阪市 17.3%	堺市 8.6%	仙台市 20.5%
熊本市 19.4%	相模原市 9%	浜松市 20.5%
北九州市 20.1%	新潟市 9.6%	千葉市 23%
横浜市 20.7%	さいたま市 9.8%	さいたま市 23.3%
川崎市 21.1%	岡山市 9.9%	熊本市 23.4%
堺市 21.2%	川崎市 10.3%	北九州市 24.3%
千葉市 21.7%	横浜市 10.9%	岡山市 24.9%
新潟市 21.9%	浜松市 11.5%	神戸市 25%
名古屋市 21.9%	仙台市 11.6%	福岡市 25.1%
京都市 22.2%	名古屋市 11.7%	名古屋市 25.8%
仙台市 22.3%	福岡市 11.8%	川崎市 26%
広島市 22.3%	京都市 12.1%	広島市 26.2%
神戸市 22.5%	広島市 12.2%	横浜市 26.5%
さいたま市 23.1%	静岡市 12.3%	京都市 27.3%
浜松市 23.7%	北九州市 12.4%	相模原市 28.2%
静岡市 24%	千葉市 12.6%	札幌市 30.1%
岡山市 24.1%	神戸市 14.4%	堺市 31.3%
相模原市 24.6%	大阪市 15.1%	大阪市 31.7%

※ 他都市との比較上、普通会計ベースで表示しています。

10. 特別会計の決算の状況(2018(平成30)年度決算)

- 2018(平成30)年度の特別会計全体での実質収支は、約59億円の黒字です。
- 一般会計からの繰入金は、約434億円と前年度から約30億円の減となっています。※市債管理特別会計除く

単位：百万円

会計区分	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出 差引額	翌年度へ繰り 越すべき財源	実質収支額	一般会計からの 繰入金	一般会計への 繰出金
後期高齢者医療	18,105	17,998	107	0	107	3,801	0
国民健康保険事業	144,629	140,880	3,749	0	3,749	17,590	0
介護保険事業	103,492	102,790	702	0	702	15,081	0
母子父子寡婦福祉資金貸付事業	1,373	442	931	0	931	19	0
集落排水事業	603	602	0	0	0	318	0
中央卸売市場	26,080	26,079	0	0	0	2,479	0
港湾整備事業	12,245	11,813	432	0	432	955	0
市営渡船事業	1,568	1,568	0	0	0	510	0
伊都土地区画整理事業	691	691	0	0	0	659	0
香椎駅周辺土地区画整理事業	4,430	4,041	389	389	0	2,010	0
公共用地先行取得事業	141	141	0	0	0	0	0
駐車場	512	489	23	0	23	1	0
財産区	149	149	0	0	0	0	0
市立病院機構事業債管理特別会計	1,857	1,857	0	0	0	0	0
市債管理	437,628	437,628	0	0	0	0	77,095
合 計	753,503	747,168	6,334	390	5,945	(43,424) 139,484	77,095
[参考]2017(H29)年度決算額	743,009	735,327	7,682	990	6,691	(46,461) 142,685	79,470

※ 端数処理の都合により、計の合わない場合がある。

※ 「一般会計からの繰入金」欄（ ）書きは、市債管理特別会計を除いた額である。

11. 公営企業の経営状況（2018(平成30)年度決算）

単位：百万円

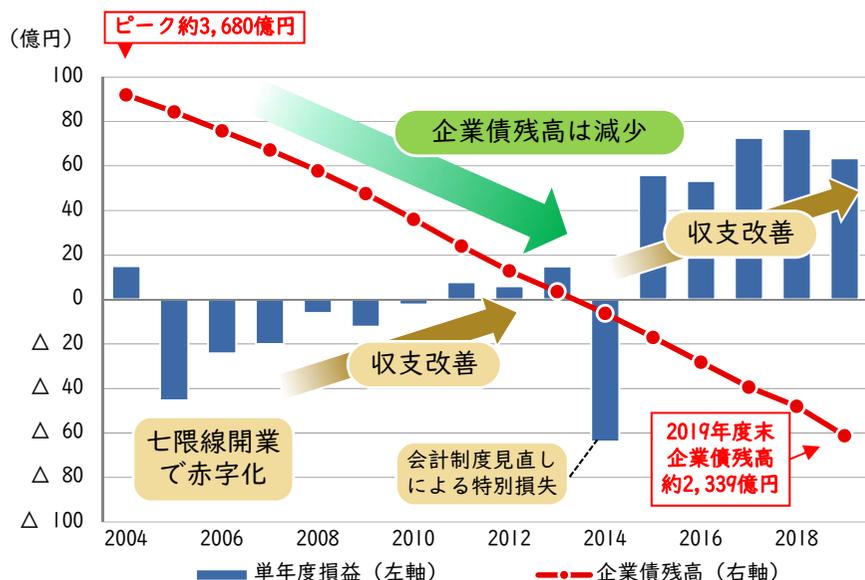
企業会計名		モーターボート 競走事業	下水道 事業	水道事業	工業用 水道事業	高速鉄道 事業	企業会計名		モーターボート 競走事業	下水道 事業	水道事業	工業用 水道事業	高速鉄道 事業
損益計算書	営業収益	44,983	43,830	32,213	222	30,945	貸借対照表	固定資産	23,122	765,890	354,594	2,038	356,967
	営業費用	42,026	41,091	26,812	173	26,269		流動資産	12,485	32,003	15,740	536	8,244
	営業利益	2,958	2,739	5,401	49	4,676		資産合計	35,606	797,893	370,334	2,574	365,211
	営業外収益	49	10,958	3,664	8	6,539		固定負債	183	333,044	108,538	1,102	217,146
	営業外費用	456	6,448	1,995	10	3,580		流動負債	1,909	50,600	15,878	287	47,713
	経常利益	2,550	7,250	7,070	48	7,635		繰延収益	417	217,263	60,065	193	79,075
	特別利益	1	229	15	-	21		負債合計	2,509	600,906	184,481	1,582	343,934
	特別損失	-	20	20	-	0		資本金	24,129	135,039	174,014	578	127,025
	当期純損益	2,551	7,459	7,065	48	7,656		剰余金	8,969	61,948	11,839	414	▲105,748
	利益剰余金	8,969	13,877	11,515	414	▲1,167		資本合計	33,097	196,987	185,853	992	21,277
上記のうち一般会計 からの繰入金額		-	15,991	223	-	2,880	負債・資本合計	35,606	797,893	370,334	2,574	365,211	
補助金		-	-	135	-	2,880							
負担金		-	15,991	88	-	-							
その他	資金不足比率	-	-	-	-	-							
	一般会計将来負担額	-	187,272	1,568	-	82,655							

※ 各数値は表示単位未満で四捨五入しており、合計等において一致しない場合がある。

12. 福岡市営地下鉄の状況

- 2005（平成17）年2月の七隈線の開業に伴う資本費負担の増加等により、2005年度以降赤字が続いていましたが、資本費負担の減少に伴って、改善傾向にあります。
- 2011（平成23）年度には九州新幹線の全線開業効果や大型商業施設の開業等に伴う増収により黒字となり、2018（平成30）年度も引き続き黒字となりました。なお、現行の長期収支見通しでは、累積損益は2040年度の黒字化を見込んでいます。
- 企業債残高は、2004（平成16）年度末の約3,680億円をピークに、毎年着実に減少しています。
- 地下鉄七隈線の天神南～博多間の延伸事業については、2012（平成24）年度に国から補助採択を受けて、2013（平成25）年度に着工しており、開業時期は2022（令和4）年度を予定しています。

収益的収支（単年度損益）の推移



※ 2017年度までは決算、2018年度は決算見込、2019は当初予算

七隈線延伸事業の概要（天神南～博多駅）

建設キロ	約1.4km (営業キロ約1.6km)
事業費	約587億円
利用人数 (延伸区間)	約6.8万人 (うち新規利用者数約2.1万人/日)
開業予定	2022(令和4)年度



13. 外郭団体の経営状況

- 福岡市の外郭団体（出資金・基本金等の25%以上を出資又は出えんしている団体）数は、33団体です。
- 外郭団体改革実行計画(現在第3次)に基づき、2004（平成16）年度以降、福岡県が主たる出資者となっている(財)アクロス福岡を除く43団体のうち、2016（平成28）年度末までに15団体を削減しています。
- 2017（平成29）年12月に策定した「外郭団体のあり方に関する指針」（2017年度～2020年度）に基づき、引き続き外郭団体の見直しを行い、より効果的・効率的な行政運営を推進していきます。

福岡市の外郭団体 【2017(平成29)年度決算】

外郭団体	出資比率	正味財産合計 又は 純資産合計 (百万円)	うち 一般正味財産 又は 利益剰余金 (百万円)	外郭団体	出資比率	正味財産合計 又は 純資産合計 (百万円)	うち 一般正味財産 又は 利益剰余金 (百万円)
1 福岡市土地開発公社	100%	2,029	1,989	18 (公財) 福岡市緑のまちづくり協会	100%	1,505	285
2 福岡市住宅供給公社	100%	3,649	1,928	19 (公財) 博多駅地区土地区画整理記念会館	100%	602	109
3 福岡北九州高速道路公社	37%	223,225	1,058	20 博多港開発(株)	51%	15,473	9,073
4 福岡県道路公社 ※福岡県外郭団体	28%	22,865	-	21 博多港ふ頭(株)	51%	5,374	4,674
5 (地独) 福岡市立病院機構	100%	5,303	4,121	22 (公財) 福岡市水道サービス公社	67%	16	1
6 (公財) 福岡アジア都市研究所	100%	31	1	23 (一財) 福岡市交通事業振興会	100%	375	375
7 (公財) 福岡市施設整備公社	100%	134	▲66	24 (公財) 福岡市学校給食公社	50%	18	8
8 (公財) 福岡市スポーツ協会(旧体育協会)	73%	254	36	25 (公財) 福岡よかトピア国際交流財団	28%	4,063	207
9 (社福) 福岡市社会福祉事業団	100%	712	129	26 (株) 福岡ソフトリサーチパーク	47%	5,328	▲1,600
10 (公財) ふくおか環境財団	100%	2,449	2,429	27 福岡タワー(株)	33%	3,948	948
11 (株) 福岡クリーンエナジー	51%	11,803	6,840	28 (公財) アクロス福岡 ※福岡県外郭団体	33%	692	133
12 (公財) 福岡市中小企業従業員福祉協会	100%	234	224	29 (株) 博多座	27%	791	▲332
13 (公財) 福岡市文化芸術振興財団	100%	661	94	30 福岡地下街開発(株)	49%	11,906	4,413
14 (公財) 福岡観光コンベンションビューロー	95%	840	35	31 サンセルコビル管理(株)	30%	154	104
15 (一財) 福岡コンベンションセンター	93%	10,236	9,735	32 (一財) 博多海員会館	40%	219	188
16 (公財) 九州先端科学技術研究所	83%	521	221	33 (公財) 福岡市教育振興会	47%	1,149	835
17 (一財) 福岡市水産加工公社	100%	279	269				

※ 廃止、統合された団体（第2次外郭団体改革実行計画）

2010年度：(財)福岡市スポーツ振興事業団を(財)福岡市体育協会に統合

2012年度：(財)福岡市健康づくり財団、(財)福岡市海づり公園管理協会を廃止

2014年度：(公財)よかトピア記念国際財団と(公財)福岡国際交流協会が合併し、(公財)福岡よかトピア国際交流財団が発足

2015年度：(公財)福岡市防災協会を廃止

※ 解散が決定している団体 ・ (一財)福岡市水産加工公社(2019年度を目途に解散)

・ 福岡市土地開発公社(2020年度を目途に解散)

2011年度：(財)福岡市下水道資源センターを廃止

14. 地方三公社の経営状況（2018(平成30)年度決算）

- 福岡市の三公社は、概ね安定した経営を続けています。
- 福岡市住宅供給公社は、賃貸住宅事業及び市営住宅管理事業が中心で、安定した経営を行っています。
【2018年度末管理戸数：借上賃貸住宅75戸，市営住宅31,460戸】
- 福岡北九州高速道路公社は、営業中道路の39%が償還済み（2018年度末）です。また、将来の採算リスクに備えるための「道路事業損失補填引当金」には約353億円が積み立てられています。
【2018年度末供用延長距離：106.3km（うち福岡高速56.8km）】
- 福岡市土地開発公社は、市事業のほか国事業に係る用地取得等も行っていますが、2018年度末現在の土地保有では市事業用の用地のみとなっています。【2018年度末土地保有残高：市事業約37億円】

公社名		福岡市 住宅供給 公社	福岡北九州 高速道路 公社	福岡市 土地開発 公社	
出資状況	資本金	10	222,936	40	
	うち本市出資額	10	82,720	40	
	(出資比率)	100%	37%	100%	
出資団体数		1	3	1	
貸借対照表	資産	固定資産	4,843	1,266,939	340
		流動資産	2,217	7,412	5,242
		繰延資産	0	904	0
		資産合計	7,060	1,275,255	5,582
	負債	流動負債	1,029	70,716	1
		固定負債	2,274	463,127	3,593
		特別法上の引当金等(特定準備金)	0	517,401	0
負債合計		3,303	1,051,244	3,593	
資本	資本金	10	222,936	40	
	剰余金	3,747	1,076	▲39	
	法定準備金	0	0	1,989	
	資本合計	3,757	224,012	1,989	
負債・資本合計		7,060	1,275,255	5,582	

公社名		福岡市 住宅供給 公社	福岡北九州 高速道路 公社	福岡市 土地開発 公社	
損益計算書	経常損益	営業収益 (a)	5,530	61,109	1,224
		営業費用 (b)	5,289	54,924	1,227
		一般管理費 (c)	123	1,356	38
		営業利益 (d=a-b-c)	118	4,829	▲41
		営業外収益 (e)	24	73	2
	特別損益	営業外費用 (f)	34	4,884	0
		経常利益 (g=d+e-f)	108	18	▲39
		特別利益 (h)	27	410	0
		特別損失 (i)	26	410	0
		法定準備金計上前利益 (j=g+h-i)	109	18	▲39
特別損益	法定準備金取崩 (k)	0	0	0	
	法定準備金繰入 (l)	0	0	0	
	法人税等 (m)	0	0	0	
	当期利益 (n=g+h-i-m)	-	18	▲39	
当期利益－住宅供給公社 (n=j+k-l-m)		109			

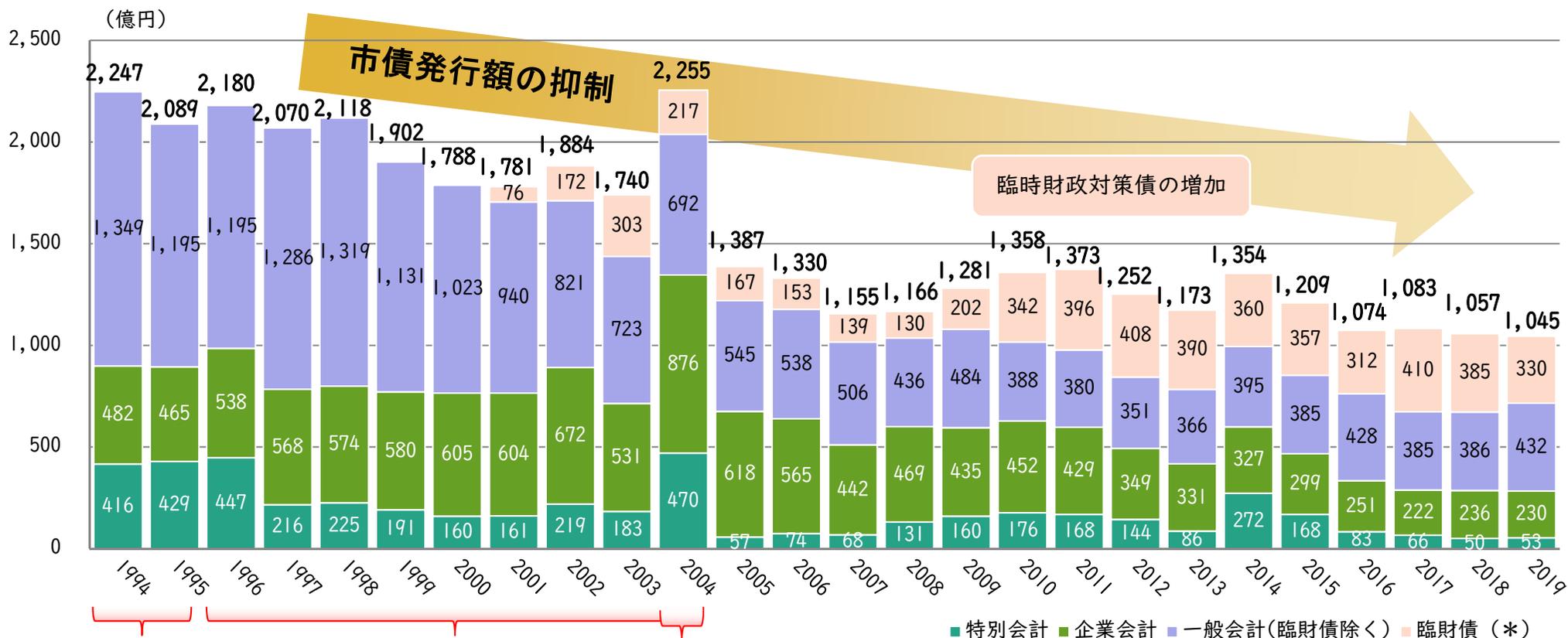
単位：百万円

※各数値は表示単位未満で四捨五入しており、合計等において一致しない場合がある。

15. 市債発行額の推移

- 市債発行額は、全会計ベースで、ピークのおよそ半分に抑制しています。
- 地方交付税の代替措置である臨時財政対策債の発行が2009(平成21)年度以降増加していますが、これは相対的に財政力の強い指定都市への臨時財政対策債の配分が増加したことによるものです。

市債発行額の推移（全会計）



ユニバーシアード福岡
大会関連施設の整備など

国の大型景気対策など

地下鉄3号線開業(2005.2月)

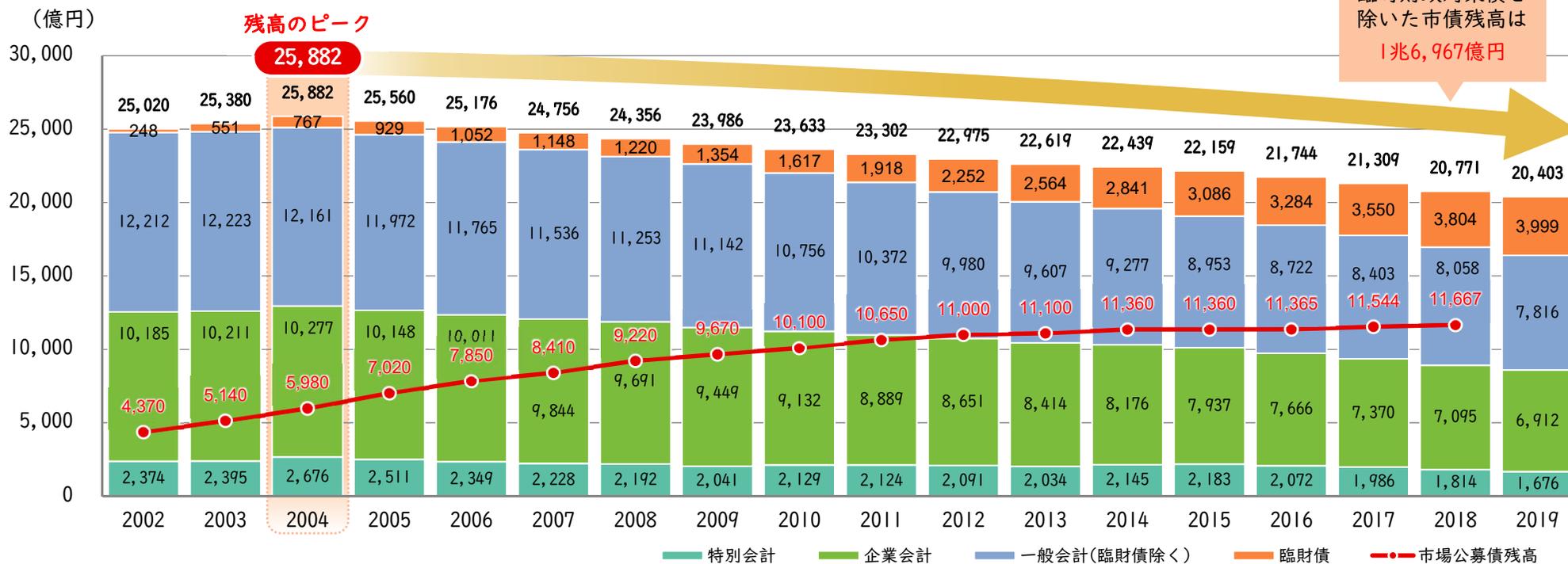
※ 2017年度までは決算，2018年度は決算見込，2019年度は当初予算

* 臨時財債（臨時財政対策債）とは，地方交付税の代わりとして地方が発行する市債です。その償還財源は全額国から地方交付税で措置されます。

16. 市債残高の推移

- 市債発行額の着実な抑制の成果として、2004(平成16)年度をピークに毎年市債残高は減少しています。また、臨時財政対策債を除いた全会計の市債残高は、さらに早いペースで減少しています。
- 引き続き、政策推進と財政規律のバランスのとれた財政運営を推進してまいります。

■ 満期一括積立金を除く全会計市債残高の推移 (億円)



■ 満期一括積立金を含む全会計市債残高の推移 (億円)

年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
残高	25,889	26,483	27,092	26,691	26,333	25,997	25,500	25,158	24,934	24,695	24,508	24,190	24,098	23,796	23,436	23,136	22,671	22,498

※ 2017年度までは決算，2018年度は決算見込，2019年度は当初予算

17. 主な財政指標（2017(平成29)年度)

- 人件費比率が政令市で最も低いということもあり、義務的経費比率が政令市の中でも上位に位置し、財政の弾力性を表す経常収支比率は比較的上位の水準となっています。

義務的経費比率		経常収支比率		財政力指数		実質公債費比率	
熊本市	50.6%	岡山市	89.3%	川崎市	1.00	札幌市	2.8
新潟市	50.8%	浜松市	91.6%	名古屋市	0.99	相模原市	2.9
福岡市	53.2%	熊本市	92.2%	さいたま市	0.98	さいたま市	5.1
仙台市	54.4%	新潟市	92.4%	横浜市	0.97	堺市	5.6
札幌市	55.5%	福岡市	92.5%	千葉市	0.94	大阪市	5.7
浜松市	55.7%	札幌市	93.6%	大阪市	0.93	神戸市	6.6
さいたま市	56.2%	静岡市	94%	相模原市	0.91	川崎市	6.9
静岡市	56.4%	千葉市	96.9%	静岡市	0.91	岡山市	7.0
北九州市	56.8%	さいたま市	97.5%	仙台市	0.91	静岡市	7.3
千葉市	57.3%	堺市	97.7%	福岡市	0.89	浜松市	7.4
川崎市	57.4%	横浜市	97.9%	浜松市	0.89	仙台市	8.2
横浜市	58.1%	広島市	98.2%	堺市	0.84	熊本市	8.8
岡山市	58.9%	大阪市	98.3%	広島市	0.84	名古屋市	10.5
名古屋市	59.4%	相模原市	98.4%	京都市	0.81	新潟市	10.9
広島市	60.7%	京都市	98.4%	岡山市	0.8	福岡市	11.7
堺市	61.1%	仙台市	98.5%	神戸市	0.8	北九州市	12.2
京都市	61.6%	名古屋市	99.2%	札幌市	0.73	京都市	12.8
相模原市	61.8%	神戸市	99.4%	新潟市	0.73	横浜市	13.3
神戸市	61.8%	北九州市	99.4%	北九州市	0.73	広島市	13.8
大阪市	64.1%	川崎市	100.5%	熊本市	0.72	千葉市	15.8

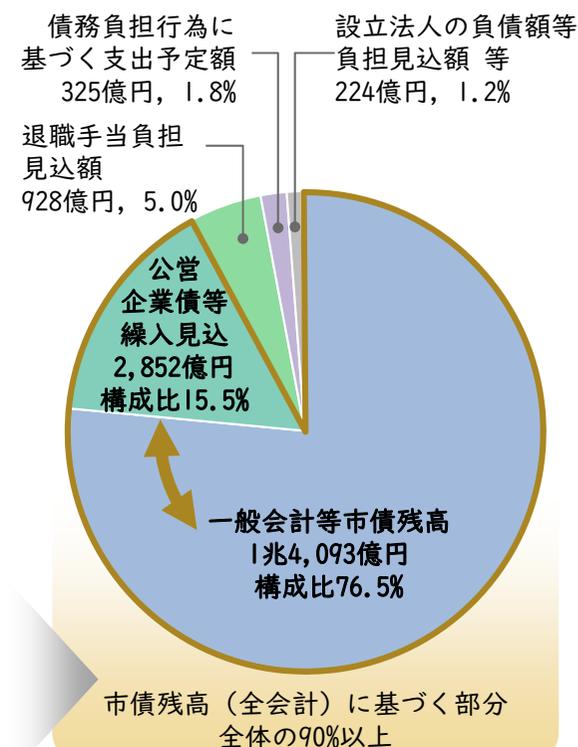
- 義務的経費比率 = 人件費 + 扶助費 + 公債費 / 歳出総額
- 経常収支比率 = 経常的経費充当一般財源 / 経常一般財源総額
- 財政力指数 = 基準財政収入額 / 基準財政需要額 の過去3ヶ年平均値
- 実質公債費比率 = {公債費(市債の元利償還金) + 実質的な公債費} / 一般財源(使途が特定されていない財源) の過去3ヶ年平均値
- 実質的な公債費 = 公営企業債の償還財源等に充てた一般会計繰出金等

18. 健全化判断比率（4つの指標）

- 全ての指標が着実に改善しており，2018年度決算でも引き続き，早期健全化基準を下回っています。
- 実質公債費比率が18%未満のため，起債にあたって国の許可が不要な『協議団体』となっています。
- 将来負担額については，算入額の90%以上が市債残高に基づくものです。今後も着実に市債残高縮減の取り組みを進めていくこととしており，将来負担比率も併せて低下していく見込みです。

指標	福岡市			早期健全化基準	財政再生基準
	2016年度決算	2017年度決算	2018年度決算		
実質赤字比率 (一般会計等の赤字の程度)	—	—	—	11.25%	20%
連結実質赤字比率 (全会計の赤字の程度)	—	—	—	16.25%	30%
実質公債費比率 (一般会計等における借入金返済の負担の程度)	12.2% ↓	11.7% ↓	11.0% ↓	25%	35%
将来負担比率 (外郭団体等も含め，一般会計等で将来負担する可能性がある負債残高の程度)	152.7% ↓	135.5% ↓	123.2% ↓	400%	

将来負担額※ 1兆8,422億円の内訳



※ 将来負担額～一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の残高

19. 「財政運営プラン」 ～健全な財政運営の取組み～

財政運営プラン 計画期間：2017(平成29)年度～2020(令和2年度)の4年間

- 市民生活に必要な行政サービスを安定的に提供するとともに、重要施策の推進や新たな課題に対応するために、歳入の積極的な確保や行政運営の効率化、既存事業の見直しなど、将来にわたり持続可能な財政運営を目指した取組みを進めています。

主な取組み		具体例
取組①	歳入の積極的な確保 <ul style="list-style-type: none"> ■ 収入・収納率の向上 ■ 市有財産の有効活用等による税外収入の確保 	【数値目標】 市税収入率 98.0% (2020年度) ※2017年度は98.6%
取組②	行政運営の効率化 <ul style="list-style-type: none"> ■ 人件費の抑制 ■ 企業会計・特別会計における見直し ■ 外郭団体のあり方の見直し 	外郭2団体 を2020年度までに 解散 (土地開発公社, 水産加工公社)
取組③	役割分担, 関与の見直し <ul style="list-style-type: none"> ■ ガイドラインに沿った補助金の適切な運用 ■ 国・県との財政負担の適正化 ■ 規制緩和による民間活力の誘導 	国庫補助負担金や県負担金等の確保 (子ども医療等助成事業など)
取組④	行政サービスのあり方の転換 <ul style="list-style-type: none"> ■ 個人給付政策の再構築 ■ 受益者負担のあり方の検討 	駐車場や施設利用の有料化 (市民センター, 公園など)
取組⑤	公共施設等の見直し <ul style="list-style-type: none"> ■ 施設の維持管理コストの縮減 ■ 公共施設等の老朽化への適切な対応 ■ 施設の必要性・あり方の見直し 	官民協働事業 (建設物の建替え) や 指定管理者 (市営住宅) の活用
取組⑥	市債発行の抑制 市債残高の縮減 <ul style="list-style-type: none"> ■ 長期的な市債残高の縮減に向けた発行抑制 	市債発行額を元金償還額以下に抑制 ※2017年度は435億円抑制

20. スタートアップ都市 福岡市

- 福岡市は、「創業のための雇用改革拠点」として、国家戦略特区に選定されています（2014年3月～）。
- 起業等のスタートアップに対する支援による開業率の向上や、MICEの誘致等を通じたイノベーションの推進及び新たなビジネス等の創出を図ります。

国家戦略特区制度を活用した取り組み ～日本の元気を福岡市から～

航空法高さ制限の特例承認

2024天神未来創造
天神ビッグバン

エリアにより76m～115m

現行の航空法高さ制限

現行法67m



- 10年間（～2024年）で建替え誘導

ビル30棟更新

床面積1.7倍

- 10年間（～2024年）の建設投資効果

2,900億円

- 建替え完了後の経済活動波及効果

8,500億円/年

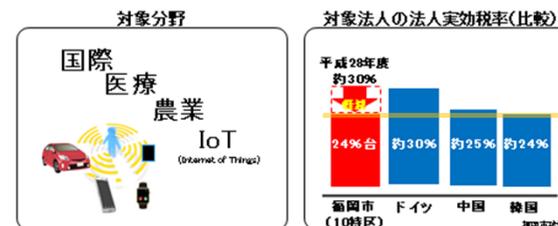
- 都心を支える交通



特区を活用した 創業支援の強化

スタートアップ法人減税（2016年度税制改正）

革新的なビジネスにチャレンジする創業者が対象
設立後5年間、所得の金額の20%を控除！（一定の要件あり）



特区を活用した 道路占有事業

音楽パフォーマンスやMICE懇親会などのイベント

FUKUOKA STREET PARTY

天神きらめき通りがパーティー会場に

わずか2日間で・・・

参加者 **13万人!**

経済効果 **16億円!**



日本初!

21. ウォーターフロントネクスト～中央ふ頭・博多ふ頭の再整備～

- ウォーターフロント地区は、アジアからのクルーズ船の寄港が増加するとともに、展示場や会議場等のMICE施設が集積するなど、国内外から多くの人々が訪れる高いポテンシャルを有したエリアです。
- 現在、供給力が不足しているMICE機能や海のゲートウェイ機能の強化とあわせ、海辺を生かした賑わい・憩いの創出を図ることにより、天神地区や博多駅周辺地区と並ぶ新たな拠点として、福岡市の成長エンジンとなる都心部の国際競争力のさらなる強化を目指し、官民連携によるまちづくりを進めています。



ウォーターフロント地区のポテンシャル

- マリンメッセ福岡, 福岡国際会議場, 福岡国際センター等 MICE施設が集中
- クルーズ船寄港回数 2017年は326回 (3年連続日本一)
- 外国航路乗降人員 2017年は209万人 (25年連続日本一)

世界に誇るインバウンド拠点の形成

クルーズ受入機能

○クルーズ船の大型化・寄港回数の増加で、岸壁整備等が急務。

- 超大型クルーズ船の2隻同時着岸に向けた岸壁整備
→ 2017年5月 **アジア最大級のクルーズ船受入を開始**

MICE機能

○既存施設の稼働率が高く、催事の「お断り」が生じている。

- 第2期展示場・駐車場・WFホール等の整備
→ 2021年世界水泳に向けて **第2期展示場を整備**

賑わい機能

○賑わい機能やゾーン内の回遊性など、利便性が不足。

- ホテル・商業エンターテインメント施設等の誘致
回遊性の向上やオープンスペース等の確保
→ 2017.9月 **航空法高さ制限緩和**
(従前70~90m ⇒ **100m**)



22. 都市の成長に向けた産業集積（国内外企業の誘致促進）

【企業誘致に向けた取り組み】

- スタートアップ都市として開業率No.1を誇る良好なビジネス環境，高度な教育機関の集積による豊富な人材といった福岡市の魅力やポテンシャルを活かした企業誘致を展開。
- 本社機能やIT，デジタルコンテンツ等のクリエイティブ産業をはじめとした成長分野に対する戦略的な誘致活動を実施。

実績

★2018年度：企業立地57社，雇用創出 1,334人

福岡市立地交付金制度

所有型 最大11億円 賃貸型 最大2億円 の立地交付金

オフィス賃料等と

雇用に対して交付金を交付

対象分野

- ・ 知識創造型産業
- ・ 健康・医療・福祉関連産業
- ・ 環境・エネルギー関連産業
- ・ グローバルビジネス
- ・ 物流関連業
- ・ 都市型工業
- ・ 本社機能
- ・ コールセンター等



企業の進出事例（2018年度）

企業名	内容	特長
<本社機能/知識創造型産業> ヤフー（株）	システム・ソフト開発	決済サービス関連のシステム開発，Yahooニュース等のデジタルコンテンツ制作拠点
<知識創造型産業> （株）マネーフワード	システム・ソフト開発	家計簿管理サービス、クラウド会計システム企画開発運営拠点
<健康・医療・福祉> KAICO（株）	医療関連産業	カイコを活用した高機能タンパク質の研究開発，その他試薬・診断薬・医薬品原料の開発拠点
<知識創造型産業/外国・外資系> アクセントチュア（株）	システム・ソフト開発	AIやRPAを活用し，世界最高レベルの業務自動化を実現する次世代オペレーションセンター「AIO福岡」開設

高度な人材，アジアとのビジネスを求め続々と進出！



第3部



23. 福岡市の信用格付け

- 市場における本市の評価向上を目指し、信用力格付けを取得しています。

格付け会社：ムーディーズ・ジャパン	
自国通貨建格付け	AI / [アウトルック：安定的]
地方自治体固有の信用力	BCA（ベースラインクレジット）：a2

※ 2018.4現在

他団体の格付け状況

	自国通貨建て	BCA
福岡市	AI	a2
福岡県	AI	a2
静岡県	AI	a2
広島県	AI	a2
札幌市	AI	a2
静岡市	AI	a2
浜松市	AI	a2
堺市	AI	a2
新潟県	AI	a3
横浜市	AI	a3
名古屋市	AI	a3
大阪市	AI	a3
京都市	AI	a3

BCAについて上位の評価を受けています。
※ a2：上位 a3：下位

格付け会社による評価

- 九州の経済的中心
- 人口増加、生産年齢人口の割合が高い
- 交通網が充実、アジア諸国からのインバウンド増加
- プライマリーバランス（市債収入・公債費を除く収支）の黒字
- 「行財政改革プラン（～2016年度）」や「財政運営プラン（2017年度～）」のもと、債務残高の縮減が図られている。



市役所本庁舎

※ ムーディーズ・ジャパンから格付けを取得している団体を記載している。

24. これまでの取り組みと発行実績

これまでの取り組み



市場公募債の発行条件一覧

2016(平成28)年度				2017(平成29)年度				2018(平成30)年度			
発行月	年限	発行額 (億円)	表面利率	発行月	年限	発行額 (億円)	表面利率	発行月	年限	発行額 (億円)	表面利率
6月	5	100	0.005%	4月	※20	100	0.309%	4月	※20	150	0.344%
7月	※20	100	0.160%	6月	5	100	0.010%	6月	5	100	0.030%
7月	5	200	0.001%	7月	5	100	0.010%	6月	※30	100	0.661%
9月	5	100	0.001%	7月	※30	100	0.718%	7月	※10	100	0.098%
10月	10	100	0.060%	8月	※10	100	0.117%	8月	5	100	0.030%
11月	20	100	0.429%	9月	5	100	0.020%	9月	5	100	0.030%
12月	5	100	0.001%	10月	10	100	0.205%	10月	10	100	0.289%
1月	※30	100	0.653%	11月	※20	150	0.359%	10月	20	100	0.701%
2月	※30	100	0.743%	11月	※30	100	0.694%	10月	※20	100	0.416%
3月	5	200	0.020%	12月	5	100	0.030%	12月	5	100	0.020%
3月	10	100	0.205%	3月	5	100	0.040%	3月	10	100	0.150%
				3月	10	100	0.200%	3月	5	150	0.020%

※印は定時償還債

25. 2019(令和元)年度 福岡市市場公募地方債の発行計画

発行予定総額

1,350億円

年限・種別			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計/ 実績計
シ 団 方 式	個 別 発 行	5年			[100]						100				200/ [100]
		10年							[100]					100	200/ [100]
	共 同 発 行	10年			[20]	[20]				20			40		100/ [40]
主幹事方式			5年 [150] 20年 [100] ※20年 [100]						20年 [100]					850/ [550]	
計			[350]		[120]	[120]			[200]	20	100		40	100	1,350/ [790]

[] 内の数字は、発行実績（※印は定時償還債）

（注）発行額及び発行月については、変更となる場合があります。

お問い合わせ先

お気軽にお尋ねください。

〒810-8620
福岡市中央区天神1-8-1
福岡市 財政局 財政部 総務資金課

電話 092-711-4592

FAX 092-733-5586

E-mail somushikin.FB@city.fukuoka.lg.jp

HP <http://www.city.fukuoka.lg.jp/>

[トップページ](#) ➡ [市政全般](#) ➡

[予算・決算・市債・寄付等](#) ➡ [市債のご案内](#)